

III. さくら保育園の保育理念と保育内容

運営原則



本園は、我が国の児童憲章と児童福祉法、ならびに国連の児童権利宣言に基づいて設立されました。本園は、ご両親にとって大切なお子さんを預かり、国や人類の明日を担う大切な宝との考えに立ち、ご家庭と相談、協力し合って、お子さん達の心と体と知恵が健やかに育つよう努めます。

…児童憲章…

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、全ての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。

児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境のなかで育てられる。

一、全ての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、その生活を保障される。

二、全ての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもって育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる。

三、全ての児童は、適当な栄養と住居と被服が与えられ、また、疾病と災害からまもられる。

四、全ての児童は、個性と能力に応じて教育

され、社会の一員としての責任を自主的に果たすように、みちびかれる。

五、全ての児童は、自然を愛し、科学と芸術を尊ぶように、みちびかれ、また、道徳的心情がつつかわれる。

六、全ての児童は、就学のみちを確保され、また、十分に整った施設を用意される。

七、全ての児童は、職業指導を受ける機会が与えられる。

八、全ての児童は、その労働において心身の発達が阻害されず、教育を受ける機会を失われず、また、児童としての生活がさまたげられないように、十分保護される。

九、全ての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、わるい環境からまもられる。

十、全ての児童は、虐待・酷使・放任その他不当な取扱からまもられる。

十一、全ての児童は、身体が不自由な場合または、精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育と保護が与えられる。

十二、全ての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる。

1. 本園の保育理念と基本方針

人間らしく健やかに育てたい

子どもは人類の宝、私たちの未来です。子どもは非常に不安定な存在であるとともに、無限の可能性を持っています。本園では、創立以来卒園証書に一つの言葉を書き続けています。

「いきていることを

すばらしいと おもうおとなに
なってください」

世界地図には約 200 の国名が書かれていますが、民俗、宗教、国境、政治による紛争に明け暮れる国が少なくありません。

大人たちの争いの結果、孤児となり、売り買いされ、暴力や飢え、病気で多くの幼い命が奪われ、悲しいことに今も続いています。

本園の運営原則（我が国の児童憲章、児童福祉法、国連の児童権利宣言）は、平和が守られているからこそ成り立っています。卒園証書の言葉は大人の責任に裏打ちされたものです。

昭和 51 年設立当初、園の周辺は栗林があり牛舎があり、緑豊かな自然がいっぱいでした。当時は交通事故も、光化学スモッグも、凶悪事件の心配もほとんどありませんでした。子ども達はあちこちに出かけ、どろんこになって遊びまわりました。

幼児期には沢山の「未知との遭遇」をします。おっかなびっくりの冒険でちょっとした怪我に泣いたり、なぐさめたりあやまったり、けんかも仲直りも、悔し涙も後悔も、助け合いも感動も、違いを認め合うこともあります。

私たちは、生きる知恵や力のほとんどが幼児期の仲間同士の遊びの中で育つと考えています。昨今の環境や情勢に不安が募る中での

子ども達の健やかな育ちのために知恵と工夫を惜しんではならないと思います。

日本民族の文化を伝えたい

多くの国にはその国固有の文化があり、子ども達に伝えながら守り続けていることを誇りにしています。植民地にされ迫害を受けながらも自らの民俗文化を守り通した国もあります。

日本は明治政府以降、西洋文明を取り入れることに重きを置きすぎた結果、我が国固有の庶民の生活に根ざした多くの伝承文化、伝承音楽を価値のないものとして政府自らの手で排除してしまいました。

今日では、地下茎のように残った庶民の文化は掘り起こされ見直されつつあります。私たちは日本の伝承文化に誇りをもち、和太鼓、わらべうたと遊びを子ども達に伝えてゆくと同時に、他の国の文化を尊重する心も育てたいと願っています。

2. 本園の保育について

1).....ひとりひとりを大切に.....

大人、他の人から大切にされた実感できた子は、人を大切にする心が育ちます。さくら保育園では子どもが「私は大切にされた」と実感できる保育をします。

① 子どもにとって居心地の良い、安心して過ごせる環境（保育室、遊具等、保育士）を提供します。

② 子どもの持つ人格、個性、価値観を尊重します。

③ 子どもが遊ぶことを通して発達成長して行く姿を見守り、自分でしようとするのを援助します。

- ④ 人の話を聴ける子、自分の言葉で話すことができる子になるよう援助します。
- ⑤ ルールを理解し守ること、集中することができる子になるよう援助します
- ⑥ 目には見えない「こころ」を理解し、共感、共有、協力しながら良い人間関係を築くことができる子になるよう援助します。
- ⑦ 自分で考え、伝え、体も十分に動かし、感覚、感性の豊かな子になるよう援助します。

担当制の保育

1999年の保育指針改訂で、乳児期において特定の保育士との間に愛着関係を形成することの重要性が明記されました。指針は2008年に改訂され告示化されましたが、基本的にこの考えは変わっていません。

幼い子どもは、たくさんの大人が関わるのではなく、特定の大人が関わることで、特定の大人に対しての信頼関係が形成され、その後の人間関係の基礎になると考えられています。

具体的には、

- ① 子どもは、食事、排泄、睡眠などの生活行為をいつも同じ大人に見守られ助けられ生活しています。
- ② 子どもは保育園の中で母親に代わる「特定の人」と過ごします。
- ③ この「特定の人」を担当保育士といいます。
- ④ 担当保育士は保護者と連携をとりながら子どもが自主的に生活、行動できるように援助します。
- ⑤ 子どもは日々担当保育士と過ごすことで、担当保育士を信頼し、安定した生活を送ることができます。

※：担当保育士不在時はフリー保育士や同じクラスの担任が保育の担当をします。

シンボルマーク

さくら保育園では、入園する時ひとりひとりシンボルマークを決めます。それは、卒園するまでずっとその子だけのマークとして大切に考えられ扱われます。

子どもの好きなもの、名前にちなんだもの、生まれた季節に関するもの等、お子さんを象徴するのにふさわしいものから選びます。

- ① マークは文字のわからないうちから自分のものであることがわかります。
- ② 自分のマークが常に自分の場所にあることによって心のよりどころとなり安心します。
- ③ 一人ひとりのマークを知ることにより、子どもが他者の存在を認め尊重する第一歩でもあります。

2) 保育園の「日課」・日常の生活リズムを大切にす.....

① 入園前の家庭での生活リズムに合わせ、保護者の方と相談しながら、保育園という集団生活のリズムを個人のペースに合わせて作って行きます。

※：0歳児クラスつくし組の場合、食事(授乳、離乳食)は担当職員が膝に抱き、1対1で食べます。一人の食事時間の目安として20分、担当の子どもは3人ですので、起床の時間、朝食の時間、登園の時間を考慮し食事の順番を決めます。

② 朝登園してから帰るまでの生活の中で自分のすべきことがわかり、考えて行動できるようになって欲しいと思っています。

※：子どもたちが自分自身で次に何をすればよいか、生活の見通しがつくように保育園生活を送っています。毎日、9時30分には戸外遊び(散歩、園庭)になりますので、遅くとも9時までに登園するようお願いいたします。

食事のすすめ方

つくし組（0才児）

- ① 離乳食は担当保育士が抱いて食べさせます。一人で椅子に座れるまでに体が発達していないからです。
- ② 子ども自身が担当保育士に抱かれながら食べる事によって、自分で食べるというイメージが湧くのです。
- ③ 1歳を過ぎて離乳が完了し、座位が安定したら、子どもの身長に合わせた椅子に座って自らもスプーンを持って食べるようになります。ただし、ある程度自分で食べられるようになるまで、担当保育士もスプーンをもう一本用意して介助します。
- ④ 椅子に座って食べるようになってからも初めは担当保育士と1人対1人で食べ、徐々にお友だちと一緒にテーブルで食べるようになります。

れんげ組～ゆり組（1才児～5才児）

- ① お友だちと一緒にテーブルで食べます。
- ② 日常の活動から食事の準備ができるまで、個人によってペースが違うため、支度が整ったら席につき、「いただきます」の挨拶をして食べ始めます。
- ③ 幼児クラスはグループ毎に挨拶をして食べ始めます。

ばら組～ゆり組（3才児～5才児）

- ① 一人一人に合わせた量を担任が盛りつけ提供しています。そうすることで適量をおいしいと感じながらきれいに集中して食べられるようになります。

排泄の自立

- ① おむつは家庭で使用している物と同じ物を保育園でも使用します。布おむつの場合は布おむつを、紙おむつの場合は紙おむつを

ロッカーに補充しておいてください。

- ② 担当保育士が個々の排尿間隔を把握し、おむつ交換をします。
- ③ パンツへの移行時期は2歳から3歳くらいと考えています。体の機能だけを見るともっと早く移行することはできますが、心と体の成長が一致するこの年齢が望ましいと考えます。
- ④ ひとりひとりその子どもにあった移行時期を保護者の方と担当保育士とが話し合い、パンツに移行します。
- ⑤ 幼児クラス（ばら組～ゆり組）になると、自分で尿意を感じたらトイレに行くようになります。さらに、生活の節目で排泄をすませておくという習慣が身に付くようになります。
- ⑥ 羞恥心を持つことを大切に考え、おむつ交換の時期からプライベートゾーンと捉え、他者から見えないようにしています。

睡眠

乳幼児が一日に必要な睡眠時間は夜だけでは足りませんので、保育園で昼寝をします。つくし組は産休明け児童など月齢の低いお子さんはベッドを使用し、SIDS（乳幼児突然死症候群）防止装置が設置されています。

つくし組の満1歳前後（個人差があります）からコット（簡易ベッド）を使用します。

当番活動

子ども達の当番活動については、子ども自身の「手伝いたい」という気持ちを第一に考え、大人が強制的にさせるのではなく、当番を手伝いたい子が基本的にするようにしますが、年長児は米とぎや飼育物の世話など当番が決まっています。

手伝いを頼まれるという事は、その子にやれる力が認められ信頼されているということ

であり、その仕事を引き受けるという気持ち、頼まれること自体がその子の喜びとなるようにしたいと思います。

3)...わらべうた.....

日本民族の伝承のうたとして、わらべうたを音楽教育の中心に置き、子どもたちに伝えたいと思います。

ハンガリーの音楽家、コダーイは次のように言いました。「音楽教育は自国の伝承民謡で始めなければならない。その単純な音楽形式を通じて世界的な曲に近づくことができる。いかに多くの人が広すぎる音域の歌を使って子どもを苦しめ、子どもの声をつぶしていることか。」と。

わらべうたは、自然発生的に生まれ、口から口へと伝えられてきた音楽で、どれも簡単なうたと動作で成り立っています。うたいつがれる中で、日本語の美しいリズムと抑揚があり、「音域が狭い」「音の飛躍が少ない」「ことばとメロディーとあそびが結びついている」などの特徴をもっています。これらの特徴は、まだ感覚器官や声帯が発達の途中である乳幼児にとって、聞きやすく、うたいやすい音楽です。子ども自身が耳で聴いて覚えて、それを絵に描くかのようにうたいます。

わらべうたの中には、各地方の方言だったり、実際にはもう使われていないような古い言葉があります。言葉の意味がわからなくても言葉に興味をもったり、その言葉から想像をふくらませたり、リズムやごろあわせを楽しんだりなど、これから言葉を獲得し、たくさん知っていく子どもたちにとっては、とても大切です。自分の声や相手の声をよく聞き、自立してうたうようになり、わらべうたを通じて、拍感、リズム感が養われ、子どもとの信頼関係を育んでいきます。

わらべうたによる音楽教育は、子どもたち

の音楽を愛するよい耳、よい心を育て、子どもたちがこれから先いろいろな音楽に出会ったとき共感し、感動し、心豊かになり、子ども自身の語らいを増やし、ことばに生命を与え、昔からの風習を伝えることに役立ちます。

わらべうたには、その年齢にふさわしいうたとあそびがあります。幼児クラスのわらべうたあそびは、ねらいをもって計画し進めています。

3歳児クラスばら組

→あそびを楽しむ・きれいな声でうたう・鼓動・大小

4歳児クラスすみれ組

→あそびを楽しむ・きれいな声でうたう・鼓動・大小・高低・物音認知・リズム

5歳児クラスゆり組

→あそびを楽しむ・きれいな声でうたう・鼓動・大小・高低・物音認知・リズム・早遅

4)...伝承文化.....

七夕、十五夜、春秋の七草、もちつき、ひな祭りなど昔からかたりつがれている由来について、行事を通じて伝え、家庭でも楽しんでもらいます(63頁参照)。

和太鼓音楽を取り入れ、日本の伝統的音楽リズムを身につけていきます。

昔から”遊びの中で子は育つ”と言われていきます。あやとり、お手玉、おはじき、ビー玉、折り紙、千代紙人形、まりつき、草花遊び、石けり、コマ、ベーゴマ、竹馬、缶蹴り、竹とんぼ、メンコ、ままごと、押しくらまんじゅう、かくれんぼ…など、楽しい遊びがたくさんあり、今も細々ながら、生きながらえている遊びもありますが、ゲーム玩具、テレビゲーム、が普及し始めた頃から、子どもたちが群れになっての遊びが消えて行きました。

ケンカしたり、泣いたり、口論したり、仲直りしたり、必死で止めに入って、あべこべ

に突き飛ばされる不運もあつたり、励ましたり、助け合ったり、遊びの日々から学んだことがたくさんありました（小さな怪我やたんこぶは当たり前でした）。

子ども達が将来、たくましく賢く豊かな人間関係を築いて、自分の人生を生きて行けるように、身体も、頭も、心もたくさん使う遊びを与えたいと思います。

ふろしき

手さげ代わりに、ふろしきを使用しています。ふろしきは、場所を取らずにたたんでしまっておくことができます。物を整理しやすく、四隅をしっかりと結び、手先の訓練にもなります。

一回結びや、かた結びで物を整理できるようになったり、ちょう結びができるようになる子もいます。

また、あそびの中にもふろしきを取り入れ、ふろしきとふろしきを結び合わせて家の屋根や囲いにしたり、体に巻き付けてドレスにしたり、頭に巻いたり、マントにしたり、体育の課業にも取り入れています。

和太鼓

年長児は外部講師による和太鼓指導を行っています。「年長になって和太鼓をたたきたい」、これがちいさな子どもたちの楽しみです。

アフリカをはじめ、世界の国々にはさまざまな太鼓があります。太鼓は、たたき手によって激しい怒りや、悲しみ、やさしさ、しんと降る雪の情景すらも表現してくれます。けれども、一番の持ち味は、よろこびと力強い躍動感でしょう。そして、和太鼓のリズムには昔からうけつがれてきた日本人の心が込められています。そのリズムに合せた歌、踊りは子どもたちの心を虜にする魅力にあふれ

ています。

5)....異年齢保育.....

現代社会では核家族が大部分を占め、親世代の兄弟も少なくなったことから家族の中の兄弟姉妹が少ないだけでなく昔に比べ、いとこ達も少なくなっています。そういう家族内の状況の兄弟関係や、希薄になったと言われる地域のつながりの中の子ども同士の遊びは、子ども社会のタテやヨコの関係を自然に学ぶことや、思いやりや尊敬の心を育てる機会が失われて来ています。こうした家族や地域で失われた大切な人間関係を回復するために、異年齢で関われる場を作る必要があり、異年齢保育を実施しています。

3歳児クラスばら組、4歳児クラスすみれ組、5歳児クラスゆり組を2つに分け、異年齢の混合クラスを作り、その名称は「かぜ」「そら」です。

その目的は、異年齢保育の中では月齢の高い4月生まれの子でも小さい子という立場になったり、月齢の低い3月生まれの子どもでも次の年には自分より小さい子のいる立場になったりします。

5歳児クラスゆり組の子どもにとって、3歳児クラスばら組の存在は「小さい子」「守ってあげよう」という気持ちを生みます。年齢も能力も異なり、障害のある子、外国籍の子、様々な人間関係の中でお互いを認め合い、協力しあい、助け合う姿がみられます。トラブルの仲裁をしたり、慰めたり、注意したり、子ども同士で解決する姿も多いのです。

年上の子はお兄さん、お姉さんらしく、年下の子は年上の子の真似をしながら育ち、お互いの違いを認め、受容する心の育ちは子どもたちにとって最も大切なもののなのです。

5歳児クラスゆり組は、年度途中より昼寝がなくなり生活リズムがかわるため、ゆり組

児食へと移行する

- ・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能が発達する。
- ・わらべうたを聞いたり、絵本を見たりすることで、発語の意欲が育つ。
- ・安全で活動しやすい環境の中で、十分な身体活動を行なう。

経験内容

- ・決まった大人が関わりながら、安定した関係を作る。
- ・離乳食は発達に応じた物を、意欲的に食べる。
- ・整った環境の中で、一定時間落ち着いて眠る。
- ・大人が歌うわらべうたを聞いて、喜び、仕草をする。
- ・天気が良い日は、戸外に出て外気に触れ、散歩を楽しむ。
- ・発達に見合った遊具を使って遊ぶ。
- ・安心できる大人の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。

3)...れんげ組の保育目標...(おおむね1～2歳)

...

- ・安心できる保育士との関係の下で食事、睡眠、排泄、などの生理的欲求を満たし安心して過ごす。
- ・食事や着脱などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・探索活動を十分に行ない外界に対する関心や好奇心を育む。
- ・安全な環境の中で自由な活動を十分に行ない、身体を動かすことを楽しむ。
- ・親しい大人からの話しかけを心地よく受け

止め、自分の欲求や思いを身振りや言葉などで大人に伝えようとする。

経験内容

- ・特定の大人が関わりながら安定した関係を作り、自分の気持ちを表しながら安心して過ごす。
- ・楽しい雰囲気の中で、椅子に座りスプーンを使って自分で食事をしようとする。
- ・保育士の言葉かけや援助により衣服の着脱に興味を持つ。
- ・天気の良い日は散歩をし、戸外活動を楽しむ。
- ・登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの運動を取り入れた遊びや、触れる、つまむ、転がすなど手や指を使う遊びをする。
- ・大人がうたうわらべうたを聞き、一緒に歌ったりその仕草をする。
- ・大人からの話しかけを喜んだり、自分から片言で話す。

4)...たんぽぽ組の保育目標...(おおむね2～3歳)

- ・楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを持つ。
- ・ひとりひとりの子どもの欲求を十分満たしたり、情緒の安定を図るとともに、身の回りの清潔や安全の習慣が少しずつ身につく。
- ・安心できる大人との関係のもとで、簡単な身の回りの活動を自分でしようとする意欲を持つ。
- ・大人と一緒に全身や、手指を使う遊びを楽しむ。
- ・大人を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。

経験内容

- ・スプーン、フォークを正しく持って食べる。
- ・排尿間隔が長くなり、排尿する感覚がわかってきた時を見計らって、パンツに移行する。
- ・着脱に意欲を持ち、脱いだ服をたたんでかごにしまう。
- ・手洗い、うがいが習慣づく。
- ・長い距離（30～40分）を歩く。
- ・友達と手をつなぎ、前の子について歩く。
- ・わらべうたを、大人と一緒にうたったり、遊びを楽しむ。
- ・自分の経験、願望、感じた事を話す。
- ・白線の内側を歩く、横断歩道で手を挙げる等の簡単な交通安全のルールを知る。
- ・遊具を共有したり、順番に使ったり、交代したりして遊ぶ。
- ・鬼ごっこ、かくれんぼなど簡単なルールのある集団遊びをする

5) ばら組の保育目標 (おおむね3～4歳)

- ・身近な人と関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。
- ・基本的な生活習慣が確立し、自立した生活を送る。
- ・自分の要求や感情を言葉で周囲に伝えることができる。
- ・集団生活に必要な決まりやルールがわかる。
- ・感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり身体を動かして自由に表現しようとする。
- ・身近な動植物や自然現象に興味や関心を持つ。

経験内容

- ・異年齢保育の中で異年齢の子どもと関わる。
- ・脱いだ衣服を自分のかごに入れたり、自分の持ち物を片付ける。
- ・わらべうたをうたったり、友達と一緒に遊びを楽しむ。
- ・散歩などの戸外活動を楽しむ。
- ・調理保育を体験する中で、素材に興味を持ち、材料とその名称を知る。

6) すみれ組の保育目標 (おおむね4～5歳)

- ・異年齢の子どもに関心を持ち、関わりを広める。
- ・自分でできる事に喜びを持ちながら、健康、安全など、生活に必要な習慣を身につける。
- ・集団で生活する中での決まり、ルールを知り、しっかりと守る事ができる。
- ・大人や友達とのつながりを広げ、みんなで一緒に取り組む事の楽しさ、喜びを知り、のびのび遊ぶ。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験した事や、思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・感じた事や、思った事、想像した事など、様々な方法で自由に表現することができる。

経験内容

- ・異年齢保育の中で仲間との関係を深める。
- ・手先の器用さを養うため、自分で脱いだ服をたたみ、カゴに入れる。
- ・わらべうたをうたう中で、友達との役交代のルールを知り、音の大小、高低等がわかる。
- ・簡単なルールのある遊びを友達と一緒に楽しむ。
- ・自分の要求、感情、経験したことを話したり、集まり等集団の中で、話しを聞く。
- ・見たり聞いたりしてイメージを広げ、描い

たり、作ったり、表現して遊ぶ。

7)...ゆり組の保育目標...(おおむね5～6歳).....

- ・年長児としての自覚を持ち、生活をする。
- ・進んで異年齢の子どもたちと関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わう。
- ・自分のできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣を身につける。
- ・周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張をしたり、また、人の立場を考えながら行動する。
- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ・絵本などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しみイメージを豊かに広げる。
- ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で工夫して、表現する。

経験内容

- ・ゆり組ならではの活動（当番、太鼓指導、宿泊保育、マフラー作り）を経験しながら、達成感や充実感を得て、自信につなげていく。
- ・日常的に異年齢の生活を送る中、年長児として年下の友達の面倒を見ることを誇りに感じる。
- ・看護師による保健指導や栄養士による食育により、自分の体について知り、自らも調理する事で、包丁の扱いや、食への関心を深めていく。
- ・友達の意見に耳を傾けて、意見を言い合う事、自分の主張を一步譲って仲間と協調したり、意見を調整しながら仲間の中で合意が得られる経験をするとともに、世代間交流や、園外活動を通して社会に目を向け、様々な立

場の人がいることを認識していく。

- ・複雑なルールのある遊びに意欲的に挑戦する。
- ・見たり聞いたりしたものを、言葉や体、音楽、造形などで自由な方法で、様々な表現を楽しむ。
- ・みんなの前でひとりでわらべうたをうたうことができる

8)...描画造形...(美術指導について)...

絵を描いたりなにかを創ることの好きな子どもを育てたいと思います。子どもが描いたり創ったりした作品を見ていると、その子の心を感じとることがよくあります。発達を見ることもあります。しかし、そのことにこだわりすぎるのはやめたいものです。

ほとんどの子どもは描くことが好きです。公園などで、木の枝を拾って一人で気の向くままに、あるいは数人で物語を膨らませながら、飽きずに描いている姿をよく見ます。また、描くことが苦手な子もいます。得手不得手があるのは当然ですから押しつけたくありません。

絵画造形の道具の性質を理解し、思いのままに扱えるようになると、失敗しても楽しいハプニングになったり、発見だったりして、嫌いだった絵画造形を好きになったりします。

私たちは子どもの感動とイメージを大切に育て、そのことを無視するような指導はしないことを基本にしています。年長児は概ね毎月一回、講師による美術指導を行います。

9)...文字と言葉.....

社会の文化の発展にともなって、子どもたちの文字に興味をもつ時期が4歳ごろになっ

ているといわれています。

日本や世界中の良い絵本や、お話といっばい親しみながら、子どもたちはいつの間にか自分たちの「お話」を作り、劇あそびにまでひろげ、絵本を作ったりします。その過程で、子どもたちはもっと豊かに表現したい気持ちが高まってきます。より多くの言葉を獲得し、文字を覚えることの意味を知りましょう。また、文字や数の指導は課業としても位置付けていますが、勉強嫌いな子にしてしまうような無理は避けています。

10) 数・量・形の知識.....

数を量として見て、触って、耳で聞いて作る。身の回りにある物の形を知る。似た形を探す、分ける。たくさんある物をそのものの性質や特徴を調べて分けたり合わせたりする。日々の生活の中でこのようなことを意識しています。あそびの中で何かに気づき、興味を持つことが子ども達の学ぶ力となります。

11) 身体を育てるために.....

戦争中は強い兵士として役立つ目的のために、子どもの身体を鍛えました。このような目的で身体を鍛えることは、二度と繰り返したくありません。大切なのは、自分自身のために身体を鍛えることです。そして、輝かしい人類の未来を創りながら歩いていくことです。

運動や遊びの中で、自分の身体を自分でコントロールする力、瞬発力、柔軟性、持久力が育っていきます。竹馬、けん玉などのむかしあそび、寒い日も暑い日もまだ残っている羽村の自然を求めて、子どもたちは外に飛び出します。

12) 地域支援事業.....

現在、保育所は地域に開かれた社会的資産として保育所のもつ専門的機能を地域の人々のために活用することが求められています。本園でも地域の人々の幅広い要望に応じたいろいろな取り組みを通して地域福祉の担い手として活動すると同時に、地域とのつながりを深めたいと思います。

本園の地域活動事業は、地域のお年寄りと園児との交流、本園卒園児や同年齢の周辺地域の子どもたちとの交流、地域の親子を対象とした交流、本園保護者や周辺地域の子育て世帯にたいする子育て支援を目的とした「子育て生活相談室」の4つを柱に活動を行っています。

地域のお年寄りとの交流

保育園では、地域のお年寄りと一緒に餅つきをしたり、流しそうめんと一緒に食べたりする交流の中で、たくさん生活の知恵を学びます。

このような経験を通し、子どもたちは、戸惑いつつ「老いの姿」を理解し、生きることの意味と尊さを感じとっています。こうして感謝と尊敬と本当の優しさが育っていくことでしょう。

地域交流広場（わたぼうし）

地域の子育て世代、お年寄りの交流の広場として利用（無料）していただきます。また、子育て相談の場として、保育士、看護師、栄養士等による相談事業を行います。

13) 行事について.....

行事は、保育園活動に節目をつけ、思い出を作るとともに職員と子どもたち、ことに子どもたち同士が知恵を出しあい協力しあう大切な場だと考えます。したがって「見せるための行事」はしません。

なお、園児の家族が参加する行事があります。これは保護者たちが自分の子どもだけでなく、集団の中のわが子や他の子たちを見るときとともに、保護者同士の交流も目的にしています。しかし、入園世帯の勤務の関係から家族参加行事は最小限にとどめることを考慮しています。

誕生日会

一人一人の誕生日には、クラスで家庭的な雰囲気の中かで祝います。その日は、誕生日の子が"主役"になり、友達から歌やカードのプレゼントをもらいます。自分が主役になる日を、カレンダーを見ながら、どんなに楽しみにしていることでしょう。

遠足

概ね秋に遠足に行きます。クラスごとに行き先を考え、秋の自然を満喫しに出かけます。

今日の自動車社会で子どもたちは歩く機会がめっきり減りました。奥多摩の麓という地の利をいかして自然にひたり、心地よい汗をかかせてあげたいと願い、年齢に応じた距離を歩くことも目的としています。

運動会

日ごろ、体育的な遊びの中で子どもたちの様子を見ていただきます。どんなあそびや課業のなかから子どもの身体が育っているのか、また、自分たちで役割分担をして楽しん

でいる様子も含めてご覧下さい。家族の皆さんの参加するゲームもあります。本園では運動会を、地域のお年寄りや子どもたち、卒園児など、大人も子どもも一緒に汗をかく楽しい一日として考えています。

発表会

日常生活の中で楽しんでいるあそびの姿を見て頂きます。みんなでわらべうた、劇遊び等をしながら楽しい一日をすごします。

もちつき

子どものかけ声の中で、昔ながらの臼、杵を使っての餅つき、皆でつきたての餅を食べながら話が弾みます。

節分(鬼やらい)

日本では古い昔から五穀(稲、麦、あわ、きび、豆)には生命を守り、魔よけの力があると信じられていました。ひいらぎの小枝に鬼の嫌うという生臭いいわしを刺して、戸という戸に張り付け、あばれながらやって来た鬼どもに豆を投げつけ、勇敢にたたかって追い払い年の数だけ大豆を食べて豊作と健康を願う。節分はドラマティックな行事です。

14) 絵本.....

絵本は人間が生まれて最初に出会う本です。読み手の声に耳をかたむける姿は保育園で毎日ように見られる光景です。

まだ、なんにも理解できないのにと、大人は思い込みがちですが、この時期、子どもの感覚はなにかを受け止め、心には確実に何かが育ち始めているのです。それがどれ程大切なのかを知っていただきたいと思います。

子ども達には良質な絵本にたくさん出会って欲しいと願い、毎日子ども達に絵本を読む"お話の時間"があります。

読み手の表情，声の色合い，リズムは子どもにはとても新鮮でワクワクするようです。読み手の思いも伝わり，想像は果てもなく広がります。絵本にたくさん出会った子は人の話を聞く力が身につく，集中力，想像力が養われます。

読み聞かせは心の育ちと生きてゆくうえで大きな糧になると信じていますので（子ども自身はまだ気づいていませんが）私たちは，絵本の選び方，与え方を大切にしています。